



長雨の影響を受けたジャガイモの収穫も、何とか終わりました。三農で栽培しているのはメイクイーンです。俵型で細長く、芽も浅いために皮がむきやすいという特徴があります。また、煮崩れしづらいため、カレーやシチュー、肉じゃがなどの煮込み料理を作る時に活躍してくれます。



9月1日、鶏舎に300羽の新生が仲間入りしました。ポリスブラウンという赤い卵を産む品種です。この子たちも120日後には第一線で活躍してくれる予定です。ちなみに鶏は、1個の卵を産むのに26時間を要するそうです。1羽当たり年間だいたい337個、約34パックという計算になります。



十和田市秋まつりで配布した1,200本のダイコンです。植物科学科2・3年生の実習で収穫・調整し、当日は2年生が1.5kmを歩きながら配布してくれました。勿論今年も大人気でした。三農祭とサンファームのPRもしたので、たくさんの方が三農を訪れてくれることでしょう。

San Farm Gallery 2017 Vol.8

三農の農場に生息する様々な植物や動物は、季節の移り変わりとともに姿や景色を変え、私たちの目を楽しませてくれたり、心をときめかせてくれたりします。San Farm Galleryでは、そんな農場の1コマを紹介します。

三農農場部



水田に放流していた金魚を、更衣室前の池に移動させました。水田は食料が豊富だったのか、たった3ヶ月間で立派に育ちました。人が近寄ると、餌をくれるものだと思っているようで、口をパクパクさせて集まって来ます。それにしても凄い数です。時間がある人は、何匹泳いでいるか数えてみてください。



三農では、小学生や幼稚園児などを対象にした農業体験学習を受け入れています。その対応をするのが、ファームナビゲーターです。小さな子供たちとふれあう絶好のチャンスです。しかし、ナビゲーターの資格を得るためには、さんのう検定を受検しなければなりません。気になっている人は、すぐ農業クラブ職員室へ行きましょう。



環境土木科の実習で、定期的に校舎前の池の掃除をしています。かなりの広さなので、時間も手間もかかります。「お疲れ様です」の一言に尽きます。どうしても大きな鯉に目が行ってしまうので、あまり目立ちませんが、稚魚も泳いでいます。興味がある人は探してみてください。